

## 政和会の行政視察てん末（報告）

日時 平成26年10月14日（火）から17日（金）4日間

視察先 静岡県 富士市、富士宮市  
山梨県 南部町

参加者 小倉建一 砂川利男 濱欠明宏 大沢俊光

持参教材 ①長内小学校で放映した久慈市の震災状況の映写（富士市）  
②岩手沿岸12市町村の津波映像3・11記録のDVD（富士市）

### 視察内容

#### 1、富士市の防災・減災の取組みについて

対応者、議長小山忠之、防災危機管理課統括主幹笠井洋一郎

富士市は、昭和41年に市制施行（人口25万8千人平成26年4月現在）  
一般会計予算829億円、特別会計18会計、企業会計3会計、議員数36人  
職員数2,508名（内中央病院職員数612人）

- 東日本大震災の教訓、これまでの科学的データを活かした地震、津波を想定し、今後の地震、津波対策の取組みがある。具体策として、富士市の被害想定レベル1は、百年から150年に1度、マグニチュード8～8.7 震度は6強と、レベル2の区分は（千年から数千年に1度）マグニチュード9、震度6強と想定南海トラフ巨大地震に対する被害内容、ライフライン支障率等を示した防災・減災の取組みが進められている。
- 市の防災組織の体制、配備に係る避難所、救護所、情報伝達、資機材の整備、津波避難タワーは4ヶ所にあり、いずれも海拔20Mの高さが基準での設置、避難ビル民間34ヶ所、公共14ヶ所を指定。
- 富士山火山防災対策として、噴火警戒レベルに応じた避難行動計画を策定している。
- 災害時の相互応援協定、早くは平成9年から（近隣2市、4都市）最近は平成25年に岩手県雫石町と締結、以下災害区分があり、43市からと35市町村別に相互応援に関する協定がなされている。
- 市民に対する自主防災意識の徹底や自主防災組織率99.7%と高く自分の命は自分で守る市民意識が周知されている。これは、津波は地震発生から3分から4分以内に津波の襲来を想定されていることに起因される。
- 各家庭に電池式ラジオを有償で戸当たり千円で配置している。（47%普及）
- 特記としては、富士山は活火山、駿河湾を含む南海トラフの震災、噴火等に係る国策及び静岡県と富士市の防災体制が連動強化が進められているように感じた。所感として、震災防災の体制づくりと減災対策は実に高度な先進地であり、国、県、

気象庁等との連携体制、データ活用、機材等とも連動体制の運びは進んでおり、参考となる事例が多かった。

ただ、駿河湾の海底の深さ2,500M級であることや震災発生から津波襲来まで3分から4分と想定した時間の短さ等は、実際に震災が発生した際には未知なところがる。また、富士山噴火の想定に関する粉じん被害は、首都東京を直撃する可能性は否定できないことなどから、一地方都市の防災、減災対策では済まされない大きさを感じた。

富士市の被災時に避難人口を13万人と推計していながら期間にも関係するが場所、住まい等の確保が難題。

また、今回は久慈市の震災体験の教材持参や岩手県沿岸12市町村津波の映像教材を富士市へ謹呈など双方向になる視察方式は好評で、より充実した意見交換、震災体験の対話等有意義な視察研修となった。

## 2、富士市吉原地区中心街の振興について

対応者、吉原商店街振興組合監事小川和孝、特命全権大志ボンジョルノ小川

議員小池としあき、海野庄三、笠井ひろし氏ら5名の対応を受ける。

○富士市には、旧富士市の中心街と吉原地区の中心街があり、今回は吉原地区の視察研修を受けた。現地では小池議員及び振興組合の小川和孝、ボンジョルノ小川の3氏から現状課題と振興展望について説明を受け、後段には、富士商工会議所事務局長清水和広ほかとの意見交換や講話を受けたまわる。

東海道宿場街に位置する吉原街でもアーケード中心街の個人商店はシャッター通りが目立ち郊外大型店や車社会の影響が見られた。

○今後の振興策は、古い集合店舗の改修や商業観光の魅力づくり、富士特産品開発に努みたい、具体策は関係者と検討に入る段階とのことであった。

F Mスタジオが常設され12時間営業は好評とのことでありスタジオ、事務所にて専務小沢教司氏による事業実績や市民に好評な番組内容について説明を受ける。

○富士市2日目は、富士市産業経済観光課の室長江村輝彦、同課長米山充氏による観光振興と地場産業について現地説明を受ける。

駿河湾海底は約2,500M級と深いことや世界遺産に認められた富士山を活かした観光と産業についての講話があり、これまでの製紙産業中心から観光振興にも今後重点的に進めたい旨の説明があった。

## 3、富士市内の民間企業視察

### ①丸富製紙富士根工場について

家庭紙総合メーカーとして、牛乳パック等の再生紙工場を視察し専務田辺定芳氏の説明によると5社大手製紙社は、原木パルプ材が柱なのに対し当社は再生紙リサイクルが柱で、他社を含む中小企業による再製紙の生産全体に占める量は66%にも当り資源の少ない日本の製紙業界に貢献している実態を知った。

また、国内製造のトイレペーパーの40%を静岡県で製造していることから震災等で静岡県が被災すると直ちに商品不足が発生する恐れがある。

#### ②アデカ富士工場について

設立は大正6年、資本金228億円、売り上げ2043億円（国内、海外の連結決算）業種は、科学品（①情報、電子化学品②機能化学品③基礎化学品）水の使用量が多いことや危険物毒物等の材料を多く扱う会社と食品関連事業として明石工場部門（①加工油脂②加工食品）がある。海外部では各種に及び米国、中国ほか10ヶ国に事業展開がなされるなど近代、未来志向的な優良企業である。

立地条件等に恵まれるなど富士山麓に位置し、良質で多量の水の活用を背景とする企業体質と時代に求められる製品開発がマッチした国内事業部門と海外部門の展開は世界に誇れる生活品、産業に必要な製品生産の功績をくみ取れるなど工業国、日本技術水準の高さを体得した。

#### ③木の文化を生かした「フジモクの家」の視察について

静岡県富士市下横割住宅部のモデルハウス現地視察は、川口祐介氏による富士市の林業振興に係る地元材を活用する木材住宅の普及活動の説明を受ける。

#### ④UCC富士工場について

UCC富士工場は1975年設立、8工場で販売額3300億円のコーヒーのメイン工場であり茶どころの産地に多様な食文化を発想して西洋の取り込みは茶どころでも受け入れられた成長産業であり静岡県でも多くの企業を受け入れられる産業構造や、直営農場を海外に持っているなど国内有数の産業県、企業育成市の体質には見張るものがあつた。

### 4、山梨県南部町の歴史と南部藩ゆかりの史跡について

#### ① 対応者 司会、小倉弘規議会局長

萩原敬議長、内田大明副議長、教育委員芦沢和彦、近藤氏、元中学校長ほか南部町は、22年国勢調査人口9012人（現在8千人台）平成26年度予算規模は50億4千万円、平成15年、旧南部町と旧富沢町が合併、当時議員数は29名、段階的に減らし現在は14名次回選挙は12名を適用。

○南部氏発祥の地、南部町舎にて目的視察のお願いと岩手県や東北に対する3・

11大震災支援のお礼挨拶、その後南部氏の所縁について意見交換をし、南部町分庁舎教育委員会所管を経て弔い菩提寺境内での現地講話を受ける。

○南部町の誕生は、昭和30年4月合併（南巨摩郡睦合村と西八代郡栄村とが合併の際、奥州南部氏の祖となる南部の名をとる）後に平成15年3月富沢町と南部町が合併し新南部町として今日に至る。

○しかし、南部氏の足跡として歴史的には今から800年ほど前、源氏の流れをくむ甲斐源氏の一族、加賀美遠光の三男「光行」が甲斐国の南にあるこの地（身延町・南部町）を治めた歴史背景が存在する。

○上記のことから光行氏は、南部に館をかまえて南部三郎光行と名乗ったことから、

この時代（1.180年）にはすでに「南部郷」として知られていたことがわかった。

○我々の来町を待ち望んでいたのか、長い歴史の眠りと隠密にあった南部氏所縁の位牌が存在することを菩提寺住職が初公開してくれた。このことに対し地元の歴史家や案内者もびっくり仰天、初めての貴重な遺品との出会に驚くと共に、この日の特別な縁起にある祖先の歴史と「南部藩ゆかりの灯火」を更に興すべく悟りを感じつつ、山梨県南部町民と共に今後の調査研究に期待することとした。

#### ②南部町商工会市川巖会長と意見交換

武田軍に追われたと伝える南部氏は、現在の東北地方に向かうほかに、この地方にながらえる手段として、隠密に姓を変えている。私の家系は、その末裔といひ伝えられていると説明。

#### ③南部町「竹と次世代の共生協議会」の視察

竹林を活かした体験型観光交流人口の増大を考案して、昨年組織を立ちあげたことと、竹林の現地視察を行なった。

#### ④南部町立美術館視察

墨彩の詩人 南部町出身の近藤浩一路の個展が展示されていた。また別室にはダウン症の天才書家 金澤翔子の世界展が開かれていた。

#### 5、富士宮市の地域力再生総合研究機構について

富士宮市は、人口13万5千人の富士山麓に位置する。視察先では渡辺孝秀氏事務局長の案内で、市民力で地域資源・食のブランドの再発見・新規開発・情報発信を実践する活動内容についての説明と富士宮市商店街での空き店舗を民間資金で活かした焼きそば、みやげ店ほか小規模店舗を集合させた広場を構成した市民、観光客の憩いの場が新設されて賑いづくり（お宮横丁）として成功している空き店舗活用の現地を視察した。

#### 6、県立富士高校に表敬訪問（15日午後4時45分）

35年前甲子園大会に出場した当時の富士高校監督と久慈高校小倉監督の再会による両校野球部の寄せ書交換や今後の親交交流の可能性について小倉氏挨拶。現役富士高校野球部員の出迎え、応援団エール、父母会の参加、岩城明富士高校校長先生の歓迎挨拶等のセレモニーが行われた。

#### 視察所感

○視察内容が盛り沢山の中、富士市では、2日間にわたる日程を組み、じっくりと震災、災害対策、減災についての視察と産業、観光振興に係る研修は、新しい試みとして、研修目的を双方向な視点での資料資材を持参しての意見交換、体験発表に準ずるシステムの内容には有意義な視察研修となった

また、偶然にも久慈市出身の富士市職員である高橋知哉氏の出迎えを受ける。

○南部藩ゆかりの南部町は、今後とも友好交流を彷彿させる歴史的関係と藩制時代の祖先のルーツを研鑽すべく認識を高めた視察であり、今後相互交流に期待される視察先となった。

- 視察先商店街の空き店舗対策や街中の振興策は地方、地域を問わず全国共通の課題になっている、それぞれの創意工夫は大切であるが国の制度や大店法緩和が問題起因にあるように思われることから、国策としての地方創生異次元の施策に期待すところが大と推察する。
- 産業振興や企業の貼り付きは、その地方の行財政、行政サービス、住民福祉の向上に連動している実態を汲み取れた。また、産業や企業の育成、成長には地理的立地条件の要素も大きく関係している。
- この度の行政視察に富士市2日間の日程や民間企業の研修が組み込めた成果には富士市出身の伊藤修氏の対応が大きかった。
- 議会改革の一翼として、静岡県富士市の防災、久慈市の震災と南部町で久慈市の教育旅行受入れ等に係る双方向の意見交換研修は好評であった。

以上、添付資料を添え政和会の行政産業視察について報告します。

平成26年10月22日

政 和 会

小 倉 建 一  
砂 川 利 男  
濱 欠 明 宏  
大 沢 俊 光